

研修No. 9 6

2022年度 病院医学教育研究助成成果報告書

報告書提出年月日	2023年 3月 30日
研究・研修課題名	遺伝カウンセリングスキルアップのための研修補助
研究・研修組織名(所属)	遺伝カウンセリングスキルアップの会
研究・研修責任者名(所属)	鬼形 和道(臨床遺伝診療部)
研究・研修実施者名(所属)	荒木 もも子、 大越 寛子(臨床遺伝診療部)

成果区分	<input type="checkbox"/> 学会発表 <input type="checkbox"/> 論文掲載 <input type="checkbox"/> 資格取得 <input type="checkbox"/> 認定更新 <input type="checkbox"/> 試験合格 <input checked="" type="checkbox"/> 単位取得 <input type="checkbox"/> その他の成果()
該当者名(所属)	荒木もも子(臨床遺伝診療部)
学会名(会期・場所)、認定名等	第28回日本遺伝性腫瘍学会
演題名・認証交付元等	単位取得: 8単位
取得日・認定期間等	2022年6月17・18日
診療報酬加算の有・無	<input type="checkbox"/> 加算有() <input checked="" type="checkbox"/> 加算無 直接的な加算はないが、遺伝学的検査の一部やゲノム医療を行う施設要件に認定遺伝カウンセラーの在籍が条件となるものがある。また、遺伝カウンセリング加算、遺伝性腫瘍カウンセリング加算の算定時において、認定遺伝カウンセラーが医師とともに遺伝カウンセリングを実施したという記載が効力になる(以下全てにおいても同様)。

成果区分	<input checked="" type="checkbox"/> 学会発表 <input type="checkbox"/> 論文掲載 <input type="checkbox"/> 資格取得 <input type="checkbox"/> 認定更新 <input type="checkbox"/> 試験合格 <input checked="" type="checkbox"/> 単位取得 <input type="checkbox"/> その他の成果()
該当者名(所属)	荒木もも子(臨床遺伝診療部)・大越寛子(看護部)
学会名(会期・場所)、認定名等	第46回日本遺伝カウンセリング学会
演題名・認証交付元等	演題:「手紙」が奏功した遺伝カウンセリングの1症例 単位取得: 10単位+5単位(荒木・大越ともに計15単位)
取得日・認定期間等	2022年7月1日~7月3日
診療報酬加算の有・無	<input type="checkbox"/> 加算有() <input checked="" type="checkbox"/> 加算無

成果区分	<input type="checkbox"/> 学会発表 <input type="checkbox"/> 論文掲載 <input type="checkbox"/> 資格取得 <input type="checkbox"/> 認定更新 <input type="checkbox"/> 試験合格 <input checked="" type="checkbox"/> 単位取得 <input type="checkbox"/> その他の成果()
該当者名(所属)	荒木もも子(臨床遺伝診療部)
学会名(会期・場所)、認定名等	日本人類遺伝学会第67回大会
演題名・認証交付元等	単位取得: 10単位
取得日・認定期間等	2022年12月14~12月17日
診療報酬加算の有・無	<input type="checkbox"/> 加算有() <input checked="" type="checkbox"/> 加算無

成果区分	<input type="checkbox"/> 学会発表 <input type="checkbox"/> 論文掲載 <input type="checkbox"/> 資格取得 <input type="checkbox"/> 認定更新 <input type="checkbox"/> 試験合格 <input checked="" type="checkbox"/> 単位取得 <input type="checkbox"/> その他の成果()
該当者名(所属)	大越寛子(看護部)

学会名(会期・場所)、認定名等	第 22 回臨床遺伝情報検索講習会
演題名・認証交付元等	単位取得：5 単位
取得日・認定期間等	web2023 年 1 月 24 日～2 月 25 日
診療報酬加算の有・無	<input type="checkbox"/> 加算有 () <input checked="" type="checkbox"/> 加算無

成果区分	<input checked="" type="checkbox"/> 学会発表 <input type="checkbox"/> 論文掲載 <input type="checkbox"/> 資格取得 <input type="checkbox"/> 認定更新 <input type="checkbox"/> 試験合格 <input type="checkbox"/> 単位取得 <input type="checkbox"/> その他の成果 ()
該当者名(所属)	荒木もも子(臨床遺伝診療部)、大越寛子(看護部)
学会名(会期・場所)、認定名等	中四国出生前医学研究会
演題名・認証交付元等	小児科医が行う出生前検査で感じること —島根大学医学部附属病院における出生前検査のまとめ—(共演)
取得日・認定期間等	web 開催 2023 年 2 月 18 日
診療報酬加算の有・無	<input type="checkbox"/> 加算有 () <input checked="" type="checkbox"/> 加算無

成果区分	<input type="checkbox"/> 学会発表 <input checked="" type="checkbox"/> 論文掲載 <input type="checkbox"/> 資格取得 <input type="checkbox"/> 認定更新 <input type="checkbox"/> 試験合格 <input type="checkbox"/> 単位取得 <input type="checkbox"/> その他の成果 ()
該当者名(所属)	荒木もも子(臨床遺伝診療部)
学会名(会期・場所)、認定名等	遺伝カウンセリング学会誌掲載
演題名・認証交付元等	がん医療に携わる看護職・相談部門の職員の遺伝/ゲノム医療 における知識の現状と学習プログラムに対するニーズ Knowledge level and needs for study programs regarding genetic/genomic medicine of nurses and counseling staff in cancer clinical care 単位：筆頭著者 10 単位
取得日・認定期間等	2022 年 43 巻 1 号 (2022 年 6 月発刊)
診療報酬加算の有・無	<input type="checkbox"/> 加算有 () <input checked="" type="checkbox"/> 加算無

目的及び方法、成果の内容

目 的

遺伝子解析技術の進展により、令和 4 年度には保険収載された遺伝学的検査は約 200 種類となった。当院は県内で唯一臨床遺伝診療部をもつ施設であり、県内の遺伝医療を牽引していく立場にある。年々、遺伝カウンセリング件数は増加しており昨年度は 591 件であった。

一方、当院及び県内の遺伝医療は十分とは言えず、対象となる方全数に適切な説明はできておらず、早急な体制整備が求められる。

そこで、当診療部に所属する認定遺伝カウンセラー[®]の 2 名が、最新の知見を得るため、第 46 回日本遺伝カウンセリング学会学術集会、日本人類遺伝学会第 67 回大会等へ参加し、当院及び島根県内の遺伝医療体制の向上と遺伝カウンセリングスキルアップに貢献することを目的とする。

① 方 法

当院の認定遺伝カウンセラー[®]の 2 名が各種関連学会に参加し、最新の情報を得ること、遺伝カウンセリング技術について学ぶこと、学会発表を行うこと、および認定遺伝カウンセラー[®]資格更新のための単位を得る。

② 成 果

1) 資格更新のための必要単位の取得

認定遺伝カウンセラー資格更新には 5 年間で 50 単位が必要。2022 年度参加した学会及び研究発表

にて荒木は 43 単位、大越は 20 単位取得。

2) 研究活動

荒木は、論文執筆を行い 2022 年発刊の遺伝カウンセリング学会誌への論文が掲載された。この採用にて 10 単位取得。この論文は、がん診療を実施している施設のメディカルスタッフの知識や思いを明らかにするものであり、その結果に基づき院内外で講師及びセミナー開催を実施した。

3) 院内における体制整備

遺伝学的検査の拡大、マイクロアレイ検査・着床前遺伝学的検査の開始に合わせ、上記の学会に参加することで遺伝カウンセリングにおける視点や診療報酬に関わるルールを学び、院内の体制整備（各種検査のフローの整備・多職種連携の整備）を実施した。特に着床前診断ワーキングの発足、HBOC 診療の体制整備に尽力した。

今年度は約 550 件の遺伝カウンセリングを実施しており、カウンセリング加算が適切に算定できるよう説明資料の作成、適切な記録の実施を行った。来年度の JOHBOC 登録事業開始に向け、準備を進めている。

4) 山陰地方での遺伝医療への貢献

荒木は、山陰小児科学会、島根乳腺疾患研究会、他院でのセミナーの講師依頼を受け実施した。県内の遺伝医療の現状を伝えるとともに県内の遺伝医療の均てん化に向けた活動として「さんいん遺伝 NW」「しまね遺伝 NW」の立ち上げを行った。

5) カウンセリング技術の向上

マズローの理論を取り入れ、多職種連携を行う上でのフローを作成した。またロジャースの理論から患者心理の分析方法についてカウンセラー同士で検討を行った。